

株式会社札幌リゾート開発公社 概要説明資料

1 団体概要

代 表 者	代表取締役社長（常勤）大谷内 則夫（市 OB）
設 立 年 月 日	昭和 48 年（1973 年）6 月 28 日
出 資 年 月 日	昭和 48 年（1973 年）12 月 4 日
基 本 財 産	1,020,000 千円
札幌市出資額	200,000 千円（出資割合 19.6%）
主 な 出 資 者	日本政策投資銀行（14.7%）、ジェイティービー（11.5%）、 日本トラスティ・サービス信託銀行（5.8%）
主 要 事 業	（1）札幌国際スキー場事業（収入の 8 割を占める） （2）ていねプールの管理・運営 （3）豊平峡電気自動車・レストハウス事業 （4）フッズスノーエリア索道・コースの管理
職 員 数 （H30.4.1 現在）	役員 18 名（常勤 4 名、非常勤 14 名） うち札幌市 OB1 名（常勤） 職員 99 名（常勤 31 名、非常勤 68 名）

2 札幌国際スキー場 利用者数・利用料金

【区分別来場者数】

（単位：人）

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
一 般	165,612	158,839	149,221	165,020	165,957
ツアー・団体	27,846	23,245	21,627	22,683	19,544
修学旅行	14,623	12,019	10,479	12,443	12,161
スキー学習	24,432	25,952	23,388	23,542	21,425
インバウンド	6,631	13,350	21,240	19,059	33,398
合 計	239,144	233,405	225,955	242,747	252,485

【利用料金の比較】

※平成 29 年度

（券種：一日券）

スキー場	一般	子ども	シニア
札幌国際	4,500 円	1,000 円	3,500 円
テイネ	5,200 円	2,600 円	4,200 円
キロロ	5,800 円	3,000 円	5,100 円
ルスツ	5,900 円	3,000 円	4,900 円
安比高原	5,900 円	3,600 円	4,200 円
ニセコグランヒラフ	5,500 円	3,000 円	4,100 円
トマム	5,400 円	3,800 円	4,320 円
志賀高原	5,000 円	2,500 円	4,200 円
野沢温泉	4,800 円	2,200 円	3,700 円
苗場	4,600 円	3,800 円	4,100 円

札幌国際スキー場の料金設定は低廉で、公共的な事業を担う団体として市民サービスに資する料金を維持。

3 財政状況

(1) 損益推移

単位：千円

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
売 上 高	886,070	981,275	967,825	1,021,464	1,104,852
売 上 原 価	1,000	4,147	877	954	636
販 管 費	880,287	926,051	907,835	933,065	1,054,109
営 業 利 益	4,783	51,076	59,113	87,445	50,107
営 業 外 収 益	13,317	13,225	16,428	12,292	22,721
営 業 外 費 用	3,037	2,420	1,685	1,136	10,055
経 常 利 益	15,064	61,881	73,856	98,600	62,773
特 別 損 益	▲1,920	▲315	657	▲9,882	▲22,031
税 引 前 利 益	13,144	61,566	74,513	88,718	40,742
法 人 税 等	2,277	7,115	5,512	33,045	▲ 4,406
純 利 益	10,867	54,451	69,001	55,673	45,149

(2) 事業別収支

単位：千円

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
札幌国際スキー場					
収 益	731,078	817,787	812,226	857,902	949,316
費 用	724,159	770,787	751,869	782,828	917,153
収 支	6,919	47,000	60,357	75,074	32,163
ていねプール					
収 益	68,039	67,788	61,538	67,262	68,673
費 用	65,320	64,831	63,848	64,633	67,649
収 支	2,719	2,957	▲2,310	2,629	1,024
豊平峡電気自動車・レストハウス					
収 益	40,740	48,075	50,845	48,873	49,482
費 用	38,978	41,472	41,760	43,942	47,147
収 支	1,762	6,603	9,085	4,931	2,335
Fu' s スノーエリア					
収 益	59,531	59,411	58,203	58,334	60,185
費 用	55,869	55,526	52,921	53,632	56,448
収 支	3,662	3,885	5,282	4,702	3,737

4 出資の在り方検討の経緯

年度	計画等	概 要
H16	札幌市出資団体評価委員会報告書	札幌国際スキー場は国有林を借り受けて当該団体が開設したものであり、当面は当該団体が本事業を担うことが妥当であるが、国有林における運営に対する地元自治体の関与には様々な形態が考えられることから、関与の在り方については、市が検討し、林野庁とも協議する必要がある。
H18	出資団体点検評価委員会	事業の担い手について、民間事業者も視野に入れて積極的に検討することが必要。国の過去の指導に依拠するのではなく、積極的に国とも協議し、最善の選択肢を選ぶ姿勢とそれに対する説明責任の遂行が重要である。
H19	出資団体点検評価委員会	今後については、出資の見直しを含め施設の担い手について、引き続き検討を要する。
H20	札幌市出資団体改革新方針	当団体が実施している業務は、民間事業者が主導して実施すべきものに移行してきていると考えられることから、今後は出資団体としての在り方について検討していくこと。 また、出資の必要性について継続的に見直しを行い、出資額や出資割合については、最低限として、必要性が無くなった出資金については引き揚げることとする。
H27	札幌市出資団体の在り方に関する基本方針	当団体が実施している業務は民間事業者が主導して実施している例が多いことから、引き続き出資団体としての在り方を検討すること。
H28	札幌市行政評価委員会外部評価報告書	経営状況が改善してきていることや「札幌市出資団体改革新方針」が策定されて7年以上経過している状況を踏まえ、出資団体の在り方について早急に検討結果を提示すること。
H28	未達成の取組に係る検討経緯	平成21年度に出資団体の在り方の検討を指摘されて以降、当団体はスキー人口の減少に加え、四ツ峰トンネル崩落事故や東日本大震災等による入込数の減少が影響し、札幌市としては経営改善が喫緊の課題と判断。その後も業務の効率化を図り、収益の改善を図ったものの、消費税増税による観光意欲の減退や老朽化した設備の修繕・更新、更にインバウンド客の増加に対する多言語対応など、経営状況に不安材料が残存していた。 一方で、直近においては、スキー人口の下げ止まりや計画的な設備更新、インバウンド対応、業務の効率化などが進み、経営状況に安定の兆しが見えつつある。 このため、札幌市としては、当団体の在り方について、今後の本市の観光施策の関連性や他の出資者への影響を見極めながら、平成29年度までに方向性を見出すこととした。